

からだのとしよしつ だより

(1号 06. 6. 25)

からだのとしよしつボランティアより：その2

からだのとしよしつは、昨年4月開設いたしました。そのときボランティアは2名でしたが、現在は5名となりました。最近では患者様とお話ができるようになり、うれしいお話を聞かせていただける時があります。今回は、そのうれしいお話をご紹介します。

★ ▼ ▲ ★ ▲ ▼ ▲ ★ ▲ ▼ ★

からだのとしよしつのおとなりにはリハビリセンターがあります。先日、そこに通っていらっしゃる方が同じ部屋の方に、“としよしつ”のお茶がとてもおいしいとお話なさったところ、話を聞かれた手術後まもないその方は、「一日も早くリハビリに通い、としよしつのお茶を飲みに行きたい」との希望をもって、がんばっていらっしゃると聞きました。「からだのとしよしつ」は、医学情報の提供という場の他かに、ほっとやすらげる空間にもなっていることを知り、とてもうれしくなりました。もっともっと皆さまのお役に立てる“としよしつ”となれるように日々努力しています。ぜひ一度お立ち寄りください。

【資料の紹介】 おすすめの一冊

『内科学』第8版（杉本恒明ほか編、朝倉書店、2003年）

■手にすると、重くて分厚い。開くと、文字がひしめき合っている。これでは「とうてい読めそうにない」というのが第一印象かもしれませんが、でも、実際に読まれる部分は全体のほんの一部で、全体が簡潔に分かりやすく書かれています。

■本書は、これから医学を学ぶ人たちのために書かれた教科書であり、専門書としても使える信頼できる内容を備えています。内科全般の広い領域をカバーし、いろいろな症状からも探せる便利な本です。辞書代わりになって導いてくれることも多いはずです。

■記述中に分かりづらい専門用語があれば、調べることもできます。そのお手伝いをするためのスタッフもいます。どうぞご利用ください。そして、お気軽に声をおかけください。

発行： からだのとしよしつ／大森病院2号館3階
開室日時 平日 10:00-16:00 / 土・日・祝休
WEB版「からだのとしよしつ」でも資料と探し方のご案内をしています。
<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/karada/>

からだのとしょしつボランティアより：その1

集会に参加し、エネルギーに生活されている方たちが、おられることを知りましたので、「がん患者の集い」をご紹介します。

平成18年3月19日（日） 第2回がん患者大集会
「変えよう日本のがん医療、手をつなごう患者と家族たち」

テーマⅠ がん情報センターの状況

テーマⅡ 患者中心の医療に向けて

がん患者及び家族、行政関係者、医療者、コーディネーターが集まり、渋谷のNHKホールで行われました。
入場者は患者または家族が事前に予約し入場、満員でした。

患者はがんになっても、元気に好きなことをして生きてゆきたいと闘い続けています。

患者は治療を選ぶ時、どのような生活をしてゆけるかを第一に考えて治療を選択したいと思っています。
同時にこころのケアも必要であり、疼痛ケアも最初の段階から必要であると訴えています。（まだまだターミナルになってからすればよいと思われています。）
また、がん治療を他県に行かないと治療できない地域もあり、全国どこに住んでいても、同じ治療が受けられるようにしてほしい等、たくさんの発言がありました。

資料は「からだのとしょしつ」にありますので、ご覧ください。

